

天理日仏文化協会こども日本語講座の取り組み⑤

4) 子供への日本語教育法を考える

学校の問題として教師の悩みに対処する

2000年に子供クラスが開講して以来、別表のように、生徒数が、年々増加してきた。最近では、日系の新聞やインターネットなどに広告をほとんど出していないが、受付開始日には、早くから新入生の保護者の列ができ、番号札を配らなければならないほどになっている。これは言うまでもなく、各クラスの担任の熱心な指導の様子が、在校生の保護者から口コミで伝わり、信頼を得られたということで、大変ありがたいことである。しかし、生徒数が増えるということは、それだけ子供たちの抱える学力や発達などの問題も複雑になり、増加しているということでもある。そして、様々な問題を抱えた子供たちを担任する教師は、日本語指導以前に、いかに落ち着いて学習に取り組ませ、クラスをまとめるかということに頭を痛めるのである。

その第一歩として、前に述べたように、学校の目指す教育基本方針を、「三つの約束」で明確にし、毎週発行する学校通信で、子供たちと保護者に対して、学校側の責任ある姿勢を示し、家庭での学習や準備などの協力を得ることから取り組むことにした。それはまた、教師にとっても、全クラスで同じ通信を読み合うことで、学校としての方針や行事などの情報を共通に理解ができ、他のクラスの日記や作文を読むことによって、指導に対するよい刺激を受ける機会になっている。

さらに、教師の負担を軽減し、子供たちへのより効果的で楽しい指導法を実践するためには、個々の教師の悩みを学校全体の問題として共有し、原因を探りながら、具体的な解決策を考える場を作る必要があった。その場は、一般の学校なら職員会議や研修という仕事の一部だが、本校の教師は、ほとんどが非常勤講師のため、勤務時間外にいわゆるボランティアで参加してもらう教師勉強会を提案することにした。

その提案は、快く受け入れてもらうことができ、土曜日の授業終了後の午後6時半から開かれる勉強会には、毎回予定時間を忘れるほど話し合いが続けられている。それぞれの教師は、他にも仕事を掛け持ちしていたり、フランス人を配偶者に持ち幼い子供がいたりして多忙な中にもかかわらず、毎回都合をつけて熱心に参加してくれているのである。

集中力の続かない原因とストレスの悪循環

教師勉強会でもよく話題に上ることであるが、子供たちの集中力の続かない原因の一つに、90分間の授業時間が、いくら躰の徹底を図るにしても、幼稚園科や、低学年の子供たちにとっては、長すぎることがあげられる。開設当時は、途中で休憩を入れたこともあったそうだが、後半の授業では、集中力が続かなかったことと、授業時間を確保するためにも、休憩を挟まず、90分間通して授業をする現在の形になったということだ。現在も、低学年クラスでは、途中でトイレ休憩を5分ほど入れ、幼稚園科では、途中でおやつ時間を設けているのだが、集中力を持続させるのは、なかなか容易ではない。

特に、時間を持て余すのは、教師の指示する日本語がよく理解できない子供たちや、多動の傾向が見られる子供たちである。

自分のすべきことが分からないという焦りと、質問する言葉も出て来ないからだから、教師や周囲の子供たちに対して、自己アピールをするためについ邪魔をしてしまうのだ。それを教師に、厳しく注意されると、ますます、いらだちはエスカレートしてしまうのである。

教師も、そうした問題を抱える子供たちにも配慮しながら、少しでも教科書の理解を深めさせようと努力を重ねてきたが、子供たちにとって、授業が苦痛のように、教師もまた、注意をして静かにさせることばかりにエネルギーを使ってしまい、本来の日本語を教える余力がなくなるという、ストレスの悪循環に陥ってしまうのである。さらに、授業後には、保護者から学習や友達関係などの相談を受けることもあり、その対応にも時間と気を使わねばならず、疲れ果てているというのが現状であった。

こうした、長時間の授業を短く感じさせ、集中させるために、進行の順番や内容を考え、子供たちと教師の双方が感じているストレスの悪循環を解消するためにも、お互いに実践した経験談や意見を交換しながら、本校独自の教育方法を確認する場が必要だったのである。

「生徒数の推移」

| 年度 | 国語 (水) | 国語 (土) | 日本語 (水) | 総数 |
|--------|--------|--------|---------|-----|
| 2000年度 | 0 | 12 | 5 | 17 |
| 2001年度 | 0 | 20 | 23 | 43 |
| 2002年度 | 0 | 49 | 34 | 83 |
| 2003年度 | 0 | 69 | 46 | 115 |
| 2004年度 | 27 | 70 | 34 | 131 |
| 2005年度 | 41 | 83 | 41 | 165 |
| 2006年度 | 68 | 99 | 44 | 211 |
| 2007年度 | 79 | 129 | 55 | 263 |
| 2008年度 | 99 | 145 | 72 | 316 |
| 2009年度 | 119 | 166 | 65 | 350 |
| 2010年度 | 125 | 170 | 73 | 368 |
| 2011年度 | 155 | 182 | 61 | 398 |
| 2012年度 | 173 | 195 | 56 | 424 |

